

令和6年度事業報告

協会にとって技術の信頼性確保と技術継承のための活動が事業の柱であり、協会設立当初から地盤の安定や止水性の確保に関する調査・研究開発事業やその成果の普及啓蒙事業、技術向上事業を本部と支部が協力し継続実施してきた。

特に令和6年度は、薬液注入工事のデジタルシステムの開発と運用体制の整備に取り組んだ。また、当協会は、令和7年4月に協会設立50年を迎えることから50年記念誌の編纂に取り組んだ。

第Ⅰ 事業

Ⅰ 当年度の主な事業

1. 薬液注入管理のデジタル化事業

(1) 令和6年度の技術開発等

薬液注入工事におけるデジタル施工管理システムの本格運用を目指し、技術開発と運用体制を整えた。①ブロックチェーン技術の開発、②QRコード技術をシステムに採用、③全国主要4メーカー体制の整備、④新システム運用のホームページを作成、⑤三成分記録装置（圧力・流量・密度）を開発・製作した。

試験運用は次の3現場で実施した。

- ①第2期君津地域広域廃棄物処理処理事業工事（民間）
- ②多摩川上流処理区西砂川第1排水区雨水枝線埋設工事（立川市）
- ③R6 国道357号市川共同溝補強その23工事（国交省）

(2) 本格運用に向けた活動

協会員が「DXシステム専用ホームページ」を円滑に利用できるように、協会ホームページからのリンクについて検討する。

協会員リース会社による通常型流量計から拡張型流量計への更新導入は、来年度以降（5年間）は、12台程度と想定している。なお、本格運用までは収入を見込めないと考えている。

(3) 検証委員会における検証

DXシステムを運用するためのガイドラインの基本方針及び運用方針について検証を頂いた。基本方針は、薬液注入技術の信頼性確保と技術継承を目的とする協会活動を柱として推進する。運用方針は、試験運用から得られる知見が必要なため、来年度も試験運用（チャート紙併用）を継続する。そのうえで、従来型流量計と拡張型流量計を同一現場で運用し、品質確認試験を行ない差異について検証する。

2. 法人設立50年記念誌の編集・発行

当協会は、令和7年4月に設立50年の節目の年を迎える。これまでも10年、20年、30年、40年の節目には記念誌を発行してきており、50年を迎える令和7年度にも50年記念誌を発行するため、令和6年度に編纂委員会を立ち上げ編集作業を行った。

50年記念誌のテーマは、設立40～50年の10年に精力的に取り組んだ次の3大テーマについて寄稿することにした。

①地球温暖化によるゲリラ豪雨、台風などへの対応、②地震に対する復興事業（東日本大震災）と今後の備え（首都直下、南海トラフ）、③工法のデジタル化、DXによる働き方改革。令和7年6月9日の協会通常総会及び懇親会に発行を予定している。

Ⅱ 協会設立以来の継続事業

【Ⅰ】 調査・研究開発事業

1. 調査・研究開発の継続実施
2. 薬液注入工事のデジタルシステム開発
3. 薬液注入工法の施工管理機器・チャート紙の認定等の継続実施
4. 薬液注入工法の施工実績に関する調査の継続実施

【Ⅱ】 普及啓蒙事業

1. 薬液注入工事のデジタルシステムの説明会実施

令和7年度の全国支部説明会の試行として、令和6年度の関東支部技術説明会において発注者や建設コンサルタントにも声をかけて外部にも発信した。参加者との活発な質疑も行われ、現場の効率化や働き方改革につながる技術への関心の高さがうかがえた。

2. 建設業界紙に会長インタビュー記事と会員名簿を掲載し協会活動の普及啓蒙

3. 建設行政施策への支援・協力

4. 講師派遣による普及啓蒙

(1) 日本下水道事業団研修センターが主催する地方公共団体担当者研修会に6年度も依頼を受けて講師を派遣し工法の普及啓蒙を図った。

(2) 技術説明会による普及啓蒙事業

発注者（国・地方公共団体等）、総合建設業、設計事務所及び会員等を対象に、注入工法を広く関係者に正しく理解をいただくため、平成9年度より毎年度全国の主要都市4～5箇所で開催してきた。令和2～3年度はコロナ事情により対面は関東支部のみの実施であったが、令和6年度は、東北支部、関東支部、北陸支部、関西支部、中国支部、九州支部の7カ所で実施。講師は技術委員会薬液注入部会の委員が務めた。

支部が企画・運営し、本部は講師派遣と経費助成をした。

5. 構成員である関係機関・専門工事業団体等との意見交換を実施

6. 資料集等の改訂・発行及び頒布等の事業

注入工法に関する調査・研究開発の成果を広く正しく利用いただくため、小冊子の「資料集等」として発行・頒布・寄贈する事業で、令和6年度も継続実施した。

なお、設計資料と積算資料は令和6年度版に改訂し頒布した。

7. 工法に関する窓口相談対応事業

国の機関・地方公共団体、総合建設業、設計事務所及び会員等から工法の設計・施工・管理に関する問い合わせが6年度も多数あり、技術委員会薬液注入部会の委員が指導・助言等を行った。

8. 建設キャリアアップシステム（CCUS）の推進事業

建設キャリアアップシステム（CCUS）の利用促進に向けては、グラウト工事に従事する全ての技能者の就業履歴や保有資格を蓄積し、処遇改善を実現するため、当協会が加盟する建設技能者能力評価制度推進協議会の企画分科会にも参画し、最新の情報収集と要望活動を行った。

具体的には、CCUSのデータを活用した安全衛生書類等の作成効率化、技能者のCCUSレベルに応じた賃金・手当制度や退職金共済制度の検討などを推進している。

また、CCUSを活用した技能者の処遇改善に取り組む優良な企業や施工能力の高い企業

の評価向上と受注機会の拡大に向け、元請企業と下請企業が共通認識を持ちながら検討を進めている。さらに、i-Construction 2.0 の趣旨に沿った現場管理の効率化や、CCUS の「共通のデータ基盤」としての機能を活用した事務作業や現場管理の効率化に取り組んだ。

9. 支部活動

- ① 建設技術フォーラム 2024 に注入工法紹介タペストリー等を出展し広報活動を実施した。
- ② 支部地域の公共機関へ耐久グラウト注入工法のPR活動を実施した。
- ③ 現場の安全パトロールと研修会を実施した。
- ② 支部が新聞等広報媒体を活用し広報活動を実施した。

【Ⅲ】技術向上事業

1. 登録グラウト基幹技能者講習の継続実施

令和6年度第16回認定講習及び第11回更新講習を実施した。

(1) 令和6年度(第11回)更新講習(受講者:203名)

(2) 令和5年度(第16回)認定講習事業(受講者:34名)

講義12時間及び試験1時間のカリキュラムにより行った。

認定講習日 令和6年9月7日(土)・8日(日)の2日間。

東京会場のみで開催した。会場 ケミカルグラウト(株) 会議室

(3) 合格者 更新講習 203名、認定講習33名

(4) 令和7年4月1日現在の有資格者 810名

2. 国家資格取得支援講習事業

「2級土木施工管理技術検定試験(種別:薬液注入)」の取得支援講習

当該検定試験の受験者を支援する講習会で、令和6年度は東京と大阪の2箇所で開催した。

【Ⅳ】その他の事業

1. 震災等の災害応急対策支援事業

2. 褒章・顕彰の候補者推薦事業

(1) 内閣府より、令和6年秋の褒章候補者の推薦依頼を受け、立和田会長を推薦し、11月3日に黄綬褒章を受章された。令和6年11月13日国土交通省において大臣より伝達を受け、褒章を着用し、奥様ご同伴で天皇陛下に拝謁された。

(2) 国土交通省からの候補者推薦依頼を受けて

令和6年度優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)候補者3名と

青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰候補者(建設ジュニアマスター)

2名を推薦し全員受賞された。

第Ⅱ 会 務

【Ⅰ】会員現況報告

令和7年3月31日現在の会員数 正会員67社 賛助会員53社・3団体

【Ⅱ】会議等の開催

協会の運営管理に関する重要事項を審議し決定するため会議等を開催した。

1. 第49回通常総会 (令和6年6月17日(月) ザ・キャピトルホテル東急)
2. 第49回通常総会懇親会 (同 上)

3. 理事会 年5回（5月、通常総会当日、8月、11月、3月に開催）
4. 業務執行理事会 （必要に応じて随時開催）
5. 監事監査及び監査報告（5月に監査し、理事会・通常総会に報告）
6. 支部長会議 （年1回9月に開催）
7. 委員会 （各委員会の課題に応じて随時開催）
8. 支部総会（4月）
9. 支部幹事会議 （年5回程度開催）
支部事業の執行に関する企画運営事項を審議するため支部幹事会を開催する。
10. 支部委員会 （必要に応じて随時開催）
課題を検討するため委員会を必要に応じて開催する。

以上